

## 形成外科・美容外科

### 1．2006年度の目標及び方針

- 1)サービスの質的/量的な向上、および安全面にも配慮して迅速化を図る。
- 2)後期研修システムを確立し、考える形成外科医を育成する。

### 2．2005年度評価

- 1)小平医師が研修終了し、2005年度より医師3名体制となった。
- 2)vacuum-assisted closureによる皮膚潰瘍治療を開始し、良好な結果を得ている。
- 3)救命救急科および家庭医診療科からの研修を受け入れた。
- 4)2003年に関連大学病院の変更があったが、それ以前の論文/学会発表が無く2004年は日本形成外科学会の関連施設基準を満たさなかった。2004年に論文/学会発表を精力的に行い、2005年は教育関連施設の認定を得た。

### 3．形成外科の業務・スタッフ

#### 1)業務内容

当科では、皮膚腫瘍などの皮膚の異常や、外傷・熱傷などの組織の障害・欠損、顔面骨骨折・先天異常などの組織の変形を扱っている。創傷治癒の専門家として褥瘡専門外来を開くとともに、院内褥瘡チームに加わり、褥瘡往診を行っている。また、シミの治療などの美容医療についても診療を行っている。

#### 2)スタッフ

形成外科は3人体制で診療している。また、とくに唇顎口蓋裂や小耳症の造詣が深い東京医科歯科大学形成外科秦維郎教授が月1回出張し、診療を行っている。

林大海(部長代理)：日本形成外科学会専門医。

東京医科歯科大学形成外科臨床講師。日本皮膚悪性腫瘍学会、日本皮膚科学会所属

鈴木真澄(医員)：日本形成外科学会、日本手の外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会所属

小平聡(医員)：日本形成外科学会所属 (2006年3月まで)

池田大志(医員)：2006年4月から

秦維郎(非常勤)：第3金曜日、東京医科歯科大学形成外科教授

### 4．年間活動内容と実績

#### 1)年間活動内容

ケロイド・肥厚性瘢痕や色素沈着に対する薬物療法その他、下記に示すような手術を行った。

#### 2)実績：年間の手術件数の内訳は以下の通り。

新鮮熱傷(全身管理を要する非手術例を含む) 7

顔面骨骨折および顔面軟部組織損傷 62

唇裂・口蓋裂 3

手・足の先天異常、外傷 24

その他の先天異常 6  
母斑、血管腫、良性腫瘍 270  
悪性腫瘍およびそれに関連する再建 30  
瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド 13  
褥瘡、難治性潰瘍 13  
美容外科 16  
その他 217 合計 661 件

## 5. 教育/勉強会関係など

入院診療では、必要に応じ全員で回診をしている。毎週土曜日の午後には、術前カンファレンスおよび抄読会、勉強会を開いている。実際には、少人数であることを活かして、随時、症例検討を行っている。定期的に写真カンファレンスを行い、術後経過を評価し、診療に役立てている。

また、院外への研修を行い、視野を広げる体制を整えている。希望があれば、可能な限り考慮していく。

### 1)日本形成外科学会専門医の取得について

2004年卒業以降は6年間の研修(2年間の初期臨床研修および4年間の形成外科研修)後に専門医試験を受けることができます。また、学会に4年間在籍していることが必要です。

### 2)後期研修内容・到達目標について、専門医取得までの最短コースを示します。

卒後3年目：1.形成外科的診察法、記載法 2.手術前後の全身管理 3.創傷治癒と外用剤の基礎知識 4.形成外科的縫合法を含む外科的基本手技 5.植皮術を含む瘢痕拘縮の手術手技を習得する。

卒後4年目：1.顔面外傷(骨折)、の診断と治療(骨切り術を含む) 2.マイクロサージェリーの基礎的練習を習得する。

卒後5年目：1.唇顎口蓋裂、耳介先天異常の診断と手術手技 2.筋皮弁、筋膜皮弁、その他の皮弁の手術手技を習得する。

卒後6年目：1.手の外科ならびにマイクロサージェリーによる再建外科の手術手技 2.悪性腫瘍の診断と治療を習得する。

\*基本的に東京医科歯科大学形成外科と共同しての後期研修を積んでいただくこととなります。

## 6. 学術関係

### 1)学会発表

林 大海、鈴木真澄 他：手背に発生した、蛆を有する巨大疣状癌の1例 第48回日本形成外科学会総会・学術集会 2005年4月13-15日

鈴木真澄、林 大海他：DPCの民間病院への拡大～亀田メディカルセンターにおける入院医療の包括評価 第48回日本形成外科学会総会・学術集会 2005年4月13-15日

小平 聡、林 大海 他：頬部に発生したBasosquamous Cell Carcinomaの1例 第245回日本形成外科学会関東支部東京地方会 2006年3月4日

文責：林大海